

パネル報告3

3Rと途上国における持続可能な消費と生産

～インフォーマルセクターを通じた取り組み～

財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 北九州事務所 主任研究員
マーティン・メディーナ



(参考:事務局訳)

3Rと途上国における持続可能な消費と生産 ～インフォーマルセクターを通じた取り組み～

マーティン・メディーナ
IGES 北九州事務所

スライド①

最初に、私が今まで研究してきたことをみなさんに紹介する場を提供して下さったIGES関西研究センターにお礼を申し上げます。私は開発途上国におけるリサイクルについてお話ししたいと思います。開発途上国のリサイクルはどのように行われているのか、最近の事例、そして3Rの取り組みによる持続可能な消費と生産の推進に、どのように貢献しているのか、といったことをお話ししたいと思います。

3Rについてはすでに郡嶋先生からお話があったので、私からはお話しせず、開発途上国でどのような3Rが行われているのかということをお話ししたいと思います。これは国によって様々で、先進国、例えば日本やヨーロッパ、アメリカでは多く、住民や企業が紙、プラスチック、金属、といった資源を分別する、市による取り組みがたいへん行われています。それらの資源を別々の箱やビニール袋に入れ

て出し、それを市が分別回収します。その後、分別、処理が行われ、リサイクル業者に回されるというのが一般的だと思います。ところが開発途上国では状況はまったく違っており、それを具体的にご紹介しようと思います。

固形廃棄物の管理(SWM)は 深刻な都市環境問題である

- ▶ 自治体予算の30～50%をSWMに充てている都市が多いが、排出される廃棄物の50%も回収できていないところも多く、80%以上を回収できている都市はほとんどない。
- ▶ 廃棄物の処理は通常、埋立地への投棄という形で行われている。
- ▶ 廃棄物の不十分な回収と不適切な処理は、貧困層に不釣り合いに影響を与えている。

2

スライド②

まず、ほとんどの開発途上国において、固形廃棄物の管理が深刻な問題になっているということをお話ししておきたいと思います。多くの都市で、自治体予算の50%もの費用が、廃棄物管理に費やされていますが、多くの場合、排出される廃棄物の半分も回収できておらず、回収率は80%以下です。回収できていないという状況も深刻ですが、回収されたとしても、その処理が空き地への投棄という形で行われており、しかも、どの空き地にでも投棄され、汚染管理措置など何もしないで行われているのです。このような、廃棄物の不十分な回収と不適切な処理は、貧困層に偏った影響を与え、人々の健康や環境に对

して深刻な汚染問題や危険を生じさせる結果となっ
 ています。

インフォーマルセクターにおけるリサイクル

- ▶ 最近の移住者、寡婦、失業者、高齢者の生き残り手段として。
- ▶ 都市人口の約1%：世界全体で1500万人にのぼる。
- ▶ 世界全体でゴミ拾い人は1500万人にのぼり、その経済効果は年間数億ドルに達する。
- ▶ にもかかわらず、ゴミ拾い人は通常、廃棄物管理計画や持続可能な消費・生産(SCP)戦略の視野に入れられていない。

3

スライド③

インフォーマルセクターにおけるリサイクルについてお話ししたいと思います。この、インフォーマルセクターにおけるリサイクルこそ、開発途上国で行われているリサイクルの現状なのです。基本的にこの作業をしているのはゴミ拾い人と呼ばれている人たちです。ゴミ拾い人たちにとって、廃棄物のなかから資源を回収することは生き抜くための手段になっています。農村部から都市部に移住してきたばかりで他に仕事が見つからない人々、夫を亡くし、何の技能もなく、又は生計を立てる手段のない寡婦などによく見受けられます。失業者も同様で、職を失った人々は、餓死するか、さもなければ廃棄物の中から資源を集めてリサイクルするしかないのです。高齢者も多くいます。多くの開発途上国には年金制度がなく、貧困層のための社会保障は何もありません。多くの場合、高齢者も生きていくためには何かしなくてはなりません。リサイクルは、そういった人々が生き延びていくためのお金を、わずかではあるが手に入れることができる手段の一つなのです。

世界銀行の推定では、開発途上国の都市人口の約1%が、廃棄物から資源を回収することを生計の手段としています。つまり、ゴミ拾い人は、世界全体

で約1500万人にのぼるということであり、相当な経済効果があるといえます。世界銀行の推定では1500万人となっていますが、その経済効果は、産業に提供される原材料の価値に換算すると年間数千億ドルになると私は見込んでいます。これほどの経済効果があるにもかかわらず、ゴミ拾い人は通常、廃棄物管理計画や持続可能な消費・生産戦略の範囲に入れられていないのが現状です。

インフォーマルセクターにおけるリサイクルに関する数字

- ▶ インドではゴミ拾い人が約100万人おり、その経済効果は年間約3億米ドルである。
- ▶ ブラジルでは、ブラジルの企業が再利用している資源の90%はゴミ拾い人によって回収されたものである。
 - * 彼らの活動によって、回収・廃棄となる廃棄物量の約20%が削減されている。
 - * アルミニウムの回収率は世界第3位：85%
 - * 紙の回収率16%、PETの回収率21%、ガラスの回収率40%

4

スライド④

この経済活動がいかに大きなものであるか、もう少しお話ししましょう。インドでは約100万人のゴミ拾い人たちが廃棄物から資源を回収しており、その経済効果は年間約3億ドルと推定されます。ラテンアメリカ最大の国ブラジルでは、ブラジルの企業が再利用している資源の90%は、ゴミ拾い人によって回収されたものだと言われており、彼らのおかげで、回収・廃棄が必要とされる廃棄物量の20%が削減されています。これだけの量の廃棄物を回収しなくて済んでいる分、市財政からの支出が抑えられているのです。ブラジルではゴミ拾い人によって国内で消費されるアルミ缶の85%が回収されており、これは世界で3番目に高い回収率です。紙の回収率は16%、PETの回収率は21%、ガラスの回収率は40%となっています。

インフォーマルセクターにおけるリサイクルに関する数字

- ▶ インド・ジャカルタでは:
- ▶ ごみ拾い人は37,000人。都市ごみの25% (年間378,000トン)を回収している。
- ▶ 同市の月間予算を30万米ドル、節約している。
- ▶ リサイクル紙の回収率90%
- ▶ 経済効果は、年間5千万米ドル以上

5

スライド⑤

インドネシアのジャカルタの状況を紹介します。ジャカルタのごみ拾い人は約3万7000人で、都市ごみの4分の1を回収しています。これは年間37万8000トンに当り、同市は1カ月当たり約30万ドルが節約できているという計算になります。リサイクル紙の回収率は90%で、こういったことを統合すると、年間5千万米ドルを超える経済効果があるといえます。

ごみ拾い人

- ▶ 多くの問題に直面。健康への深刻なリスク、当局による搾取と抑圧、社会からの拒絶など。
- ▶ ごみ拾い人を支援することは、持続可能な開発の優良事例になり得る。
 - * 雇用の創出
 - * 貧困の緩和
 - * 回収・廃棄にかかるコストの節約
 - * 埋立地の延命
 - * 安価な原材料の企業への供給
 - * 天然資源の保全
 - * 環境保護

6

スライド⑥

ごみ拾い人たちは、こうして社会や環境に貢献しているにもかかわらず、多くの問題に直面しています。日常にごみを触っているため、まず、健康面で深刻な危険にさらされています。この種の仕事をまるで理解していない当局関係者から搾取を受け、抑圧され、また社会からも拒絶されています。しかし、こういったごみ拾い人たちを支援することは、

持続可能な開発の理想的な事例になりうると私は考えています。まず雇用を創出することができます。貧困を減らし、都市がごみの回収と廃棄に費やすコストを節約し、埋立地や投棄用地を延命させることができ、安価な原材料を企業に供給し、天然資源を保全し、環境を守ることができるのです。

ごみ拾い人の組織化

- ▶ モデル
 - 1) 協同組合
 - 2) 零細企業(マイクロ・エンタープライズ)
 - 3) 官民パートナーシップ
(パブリック・プライベート・パートナーシップ)

7

スライド⑦

ここ数年、ごみ拾い人たちは組織化する方向で非常に精力的な活動を展開してきました。自分達の労働環境や生活環境の向上に関して、個人でできることは少ないが、みんなが力を合わせればできることがあるということを皆知っているのです。その活動について紹介します。基本的に、組織化の形態は次の3つです。協同組合、零細企業、及び当局との共同による官民パートナーシップ。

ごみ拾い人の協同組合

- ▶ コロンビアでは、100の協同組合で構成された全国組織がある。
- ▶ ブラジルでは、500の協同組合、60,000人のメンバーが集まって全国的な運動を展開。
- ▶ ラテンアメリカには、ごみ拾い人のネットワークがある。

8

スライド⑧

協同組合という形態で、もっとも活発な動きを見せているのは、コロンビアとブラジルです。コロンビアのごみ拾い人たちの組織化は20年ほど前から始まりました。現在では100を超える協同組合から成る全国組織が存在するほどで、重要な目標も達成することができました。例えば、ごみ拾いは合法的な活動であると政府からようやく認められ、ごみ拾い人たちも社会的に認知されるようになったのです。業務革新、新製品、新サービスなどを開発した協同組合は、政府から表彰されることもあるということです。ブラジルでは500の協同組合、6万人のメンバーが集まって、全国的な運動が展開されています。1年ほど前にはラテンアメリカのごみ拾い人ネットワークが立ち上げられ、アルゼンチン、ウルグアイ、中央アメリカ、メキシコの代表者が一堂に会しました。

ごみ拾い人の協同組合

- ▶ **ASMAREウエスト・ピッカー協同組合**
 (Associação dos Catadores de Papel, Papelão e Material Reaproveitável)
- ・1988年ブラジルのペロオリゾンテで発足。
- ・メンバー380名全員が、以前は街のごみを拾って生活していた。
- ・55%が女性
- ・1カ月に500トンの資源を回収(主に紙、段ボール、プラスチック、金属など)

スライド⑨

成功を収めている協同組合の事例を2つ、手短にご紹介します。一つ目はブラジルのASMAREで、ASMAREは、1988年に、それまで街のごみ拾い人たちによって設立されました。現在380名のメンバーを有し、その半分以上が女性です。1カ月に500トンの資源を回収しており、主なものは紙、段ボール、プラスチック、金属です。

ごみ拾い人の協同組合

- ▶ **ASMAREウエスト・ピッカー協同組合**
- ・学校、企業、住宅、オフィスビルなどから、分別ごみを回収。
- ・メンバーは最低賃金の最高6倍、ASMARE発足前の4倍の収入を得ている。
- ・メンバーには研修・訓練等のメリットあり。
- ・ASMAREは、他の協同組合のモデルになっている。

スライド⑩

協同組合結成前とどこが違うかということ、以前は大型のごみ収集箱をあさって、ビニール袋の中に手を突っ込んでリサイクル可能な資源を集めていたのですが、現在は、資源分別プログラムを実施しています。学校、企業、住宅、オフィスビルなどと協力することで、生産性が上がり、資源の分別に費やす時間も削減できるようになりました。こうして今ではブラジルの最低賃金の6倍もの賃金を稼げるようになったのです。この協同組合の発足前後で賃金を比較してみると、収入は4倍に膨らみ、所得の向上という大きな成果がありました。所得以外にもメンバーは、研修・訓練、融資、奨学金制度等のメリットも得ることができました。現在このASMAREはブラジル国内だけでなく他のラテンアメリカの国々でも、協同組合のモデルになっています。ごみ拾い人が組織化されることで理想的な形になることができるかということを示す1例といえます。

これはフィリピンのマニラです。この種の活動に参与している人々は健康に危険を伴っているということがお分かりいただけるでしょう。組織化されれば、また状況も変わってくるのです。

あまり鮮明な写真ではありませんが、左の黄色いTシャツを着た女性はASMAREのメンバーです。この協同組合は周辺地域を回り、分別して出された資



スライド⑩

源を集めて回っています。メンバーは分別されていないゴミに触れる必要はなく、おかげで健康への危険度は低下し、所得は向上しました。この写真は、メンバーが回収してきた資源の重さを量っているところです。



スライド⑫



スライド⑬

ASMAREには処理機械もあり、自分達で資源処理を行うことができます。ここで処理しているのは段ボールです。これ以上の作業をしているケースもあり、資源に価値を付加しているといえます。再生紙の製造をすることさえあります。プラスチックで家を建てたりすることもあります。リサイクルをして、小規模な製造業を営んでいるのです。

ごみ拾い人の協同組合

- ▶ フィリピン・マニラの協同組合「Linis Ganda」は、かつてのスカベンジャー（ごみ拾い人）1,500名を雇用し、1ヶ月当たり4,000トン再生可能な資源を回収。日給は5～20米ドル。

14

スライド⑭

もう1つ、成功を収めている協同組合が、日本からも近いフィリピンにあります。Linis Gandaはかつてごみ拾い人だった人々 1500人超を雇用し、1ヶ月に再生可能な資源を4000トン回収しています。日給は最高20ドルで、フィリピンにおける所得を考えるとかなりの高額といえます。



スライド⑮

Linis Gandaのメンバーです。ご覧のように、全

員緑色のシャツを着ています。Linis Gandaはこの仕事を誇らしいものにしようと努めています。メンバーは清潔で、ユニフォームを着用しています。



スライド⑯

メンバーはこのようなカートを使って、決められたコースを回っています。その日程は住民に知らされています。各メンバーが回るコースが決められており、毎週、担当地域を回り、分別された資源を買い取るのです。たとえばガラスの壘や紙、その他の資源がいくらぐらいで買い取ってもらえるかを住民は知っており、行き違いが生じることはありません。ひとつの市場になっているといえるでしょう。



スライド⑰

マニラにはパシグ川や運河が流れています。最初にお話したように、市によるごみ収集サービスを受けていない人はたくさんいます。運河のそばに

住んでいる人々は、ごみを運河に捨ててしまい、運河の川面に資源がたくさん浮いているという状態になっています。メンバーは小さなボートに乗って、浮いている資源を回収、分別し、リサイクル業者に売却します。

零細企業(マイクロ・エンタープライズ)

- ▶ メキシコシティでは、何百もの零細企業が、ごみ回収が不十分な地域で非公式に活動している。
- ▶ 住民からごみ収集料を徴収し、再生可能資源を回収。
- ▶ 最低賃金の最高7倍を得ている。

18

スライド⑱

2つ目の形態として零細企業があります。1つだけ事例をご紹介します。メキシコシティでは、市によるごみ収集が行われていない地域において、何百人という人たちがごみの回収を行っています。彼らは住民からごみ収集料を徴収しています。ごみを回収した後、再利用可能な資源だけを分別し、売却します。このやり方で、彼らは最低賃金の7倍ものお金を手に入れることができます。



スライド⑲

これはそういった人たちの写真です。ロボの荷車を使っていますが、馬も使われています。手押し車や小型トラックを使っている場合もあります。

官民パートナーシップ



スライド⑩

3つ目の形態は官民パートナーシップで、組織化されたゴミ拾い人たちが市とある種のパートナーシップを結ぶというものです。このリサイクル工場はブラジルのプエルトアレグレ市が建設したものです。工場の建設は市が行いましたが、運営はごみ拾い人の協同組合が行うというものです。工場で働いている人は全員、この協同組合のメンバーで、工場の管理と運営を行っています。資源を再生し、加工したものを企業に売却します。この活動で、同市で排出される廃棄物の約5%をリサイクルしています。

官民パートナーシップ



スライド⑪

これはコロンビアの官民パートナーシップの例です。この車は市の所有ですが、ここにいる、青いユニフォームを着た3人は、協同組合のメンバーです。彼らは市と契約を結び、コロンビアのカリ近郊の一定エリアに限って、このサービスを提供しています。このグループがこの特定のエリアでゴミを回収するのにかかるコストを他の民間企業と比較すると、大企業よりも少ないコストでサービスを提供していることになります。

官民パートナーシップ



スライド⑫

これは別の地域です。これもコロンビアで、再生可能資源の回収を行っています。紹介してきた事例はどれも、様々な資源が混ざった混合廃棄物を回収していましたが、この事例では、再生可能な資源だけを回収しています。彼らも市と契約を結んでいます。

組織化することで得られるメリットの1つがよく現れている写真だと思います。隔年で協同組合の総会が開かれており、これは数年前に開催された総会の写真です。組織化し、当局に圧力をかけることで、法律を変えることに成功しました。先にも述べたように、今や彼らの活動は合法的であり、政府から信頼と賞を受けることができるようになりました。



スライド⑳



スライド㉑

組織化されることのメリットとして、このような事業を展開することができる、ということもあります。これはコロンビアの首都ボゴタで実施されているプログラムで、要は子供のための託児所です。ここに写っている子供たちはみな、ゴミ拾い人たちの子供です。この事業の目的は、ゴミ拾いに従事する児童労働を減らし、子供たちにゲームやレクリエーション、教育、歯や健康のケアを施し、子供たちの将来を親たちよりも良いものにするににあります。

結論として、開発途上国のリサイクル活動はゴミ拾い人に依存している、ということを申し上げたいと思います。先進国のリサイクルシステムとは異なりますが、開発途上国のリサイクルシステムもまた、経済を土台にしたものです。先進国のリサイクルシ

結論

- ▶ 開発途上国におけるリサイクル活動は、ごみ拾い人に依存している。
- ▶ 経済的背景：貧困、セーフティネットの不足、安価な原材料に対する企業の需要。
- ▶ 低収入の主な原因として、中間業者による搾取と抑圧的な政策が考えられる。

スライド㉒

ステムのコストは高く、必ずしも経済的に見合うものにはなっていません。しかし開発途上国では、システム全体が経済的な面でもうまく機能しており、このシステムに関与している人たちがすべてがお金を得ることができています。この背景にあるのは、ごみ拾いに関与している人々の貧困と失業、貧困層のための社会保障の欠如、そしてなんとと言っても、安価な原材料に対する企業の需要があります。従事する人々の多くが低水準の所得しか得られていない原因として、中間業者による搾取と抑圧的な政策が考えられます。

結論

- ▶ 組織化することで、中間業者を介さず、抑圧的な政府の政策を変えることができる。
- ▶ スカベンジング（廃棄物から再生可能資源を回収すること）は、雇用創出、貧困緩和、都市環境の整備のほか、埋立地の寿命を延ばし、企業の競争力を高めることができる。すなわち、より持続可能な消費と生産の実現につながる。
- ▶ したがって公共政策として、スカベンジャー（ごみ拾い人）を支援し、彼らの労働環境と生活環境の向上に取り組むべきである。

スライド㉓

ただし、組織化されることで、先ほどコロンビアの事例でお話したように、中間業者を飛び越え、抑圧的な政府の政策を変えることが可能となります。ごみ拾いは、雇用を創出し、貧困を緩和し、都

市環境の整備を助け、埋立地の寿命を延ばし、企業の競争力を高めることができるのであり、それはつまり、より持続可能性の高い消費と生産につながるのです。したがって、まだ見受けられるごみ拾い人と対立する公共政策を掲げるのではなく、彼らを支援し、労働環境と生活環境を向上できるようにしていくべきなのです。ご静聴ありがとうございました。

(参考:事務局訳)

3Rと途上国における持続可能な消費と生産 ～インフォーマルセクターを通じた取組み～

マーティン・メディーナ
IGES 北九州事務所

スライド①

固形廃棄物の管理(SWM)は 深刻な都市環境問題である

- ▶ 自治体予算の30～50%をSWMに充てている都市が多いが、排出される廃棄物の50%も回収できていないところも多く、80%以上を回収できている都市はほとんどない。
- ▶ 廃棄物の処理は通常、埋立地への投棄という形で行われている。
- ▶ 廃棄物の不十分な回収と不適切な処理は、貧困層に不釣合に影響を与えている。

2

スライド②

インフォーマルセクターにおけるリサイクル

- ▶ 最近の移住者、寡婦、失業者、高齢者の生き残り手段として。
- ▶ 都市人口の約1%:世界全体で1500万人にのぼる。
- ▶ 世界全体でごみ拾い人は1500万人にのぼり、その経済効果は年間数億ドルに達する。
- ▶ にもかかわらず、ごみ拾い人は通常、廃棄物管理計画や持続可能な消費・生産(SCP)戦略の視野に入れられていない。

3

スライド③

インフォーマルセクターにおけるリサイクルに関する数字

- ▶ インドではごみ拾い人が約100万人おり、その経済効果は年間約3億米ドルである。
- ▶ ブラジルでは、ブラジルの企業が再利用している資源の90%はごみ拾い人によって回収されたものである。
 - * 彼らの活動によって、回収・廃棄となる廃棄物量の約20%が削減されている。
 - * アルミニウムの回収率は世界第3位:85%
 - * 紙の回収率16%、PETの回収率21%、ガラスの回収率40%

4

スライド④

インフォーマルセクターにおけるリサイクルに関する数字

- ▶ インド・ジャカルタでは:
- ▶ ごみ拾い人は37,000人。都市ごみの25% (年間378,000トン)を回収している。
- ▶ 同市の月間予算を30万米ドル、節約している。
- ▶ リサイクル紙の回収率90%
- ▶ 経済効果は、年間5千万米ドル以上

5

スライド⑤

ごみ拾い人

- ▶ 多くの問題に直面:健康への深刻なリスク、当局による搾取と抑圧、社会からの拒絶など。
- ▶ ごみ拾い人を支援することは、持続可能な開発の優良事例になり得る。
 - * 雇用の創出
 - * 貧困の緩和
 - * 回収・廃棄にかかるコストの節約
 - * 埋立地の延命
 - * 安価な原材料の企業への供給
 - * 天然資源の保全
 - * 環境保護

6

スライド⑥

ごみ拾い人の組織化

▶ モデル

- 1) 協同組合
- 2) 零細企業(マイクロ・エンタープライズ)
- 3) 官民パートナーシップ
(パブリック・プライベート・パートナーシップ)

7

スライド⑦

ごみ拾い人の協同組合

- ▶ コロンビアでは、100の協同組合で構成された全国組織がある。
- ▶ ブラジルでは、500の協同組合、60,000人のメンバーが集まって全国的な運動を展開。
- ▶ ラテンアメリカには、ごみ拾い人のネットワークがある。

8

スライド⑧

ごみ拾い人の協同組合

- ▶ **ASMAREウエスト・ピッカー協同組合**
(Associação dos Catadores de Papel, Papelão e Material Reaproveitável)
 - ・ 1988年ブラジルのベロオリゾンテで発足。
 - ・ メンバー380名全員が、以前は街のごみを拾って生活していた。
 - ・ 55%が女性
 - ・ 1カ月に500トンの資源を回収(主に紙、段ボール、プラスチック、金属など)

9

スライド⑨

ごみ拾い人の協同組合

- ▶ **ASMAREウエスト・ピッカー協同組合**
 - ・ 学校、企業、住宅、オフィスビルなどから、分別ごみを回収。
 - ・ メンバーは最低賃金の最高6倍、ASMARE 発足前の4倍の収入を得ている。
 - ・ メンバーには研修・訓練等のメリットあり。
 - ・ ASMAREは、他の協同組合のモデルになっている。

10

スライド⑩



スライド⑩



12

スライド⑫



13

スライド⑬

ごみ拾い人の協同組合

- ▶ フィリピン・マニラの協同組合「Linis Ganda」は、かつてのスカベンジャー（ごみ拾い人）1,500名を雇用し、1ヶ月当たり4,000トン再生可能な資源を回収。日給は5～20米ドル。

14

スライド⑭



スライド⑮



スライド⑯



17

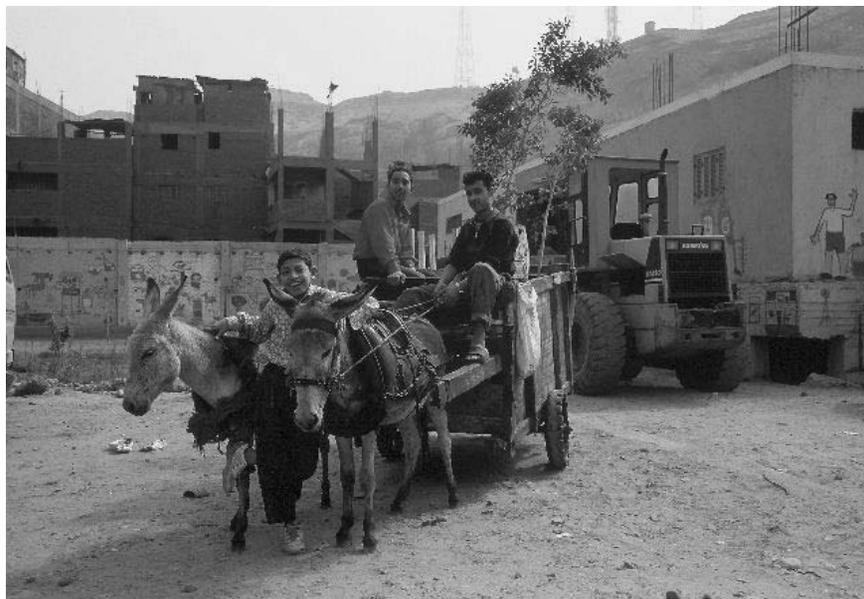
スライド⑰

零細企業(マイクロ・エンタープライズ)

- ▶ メキシコシティでは:何百もの零細企業が、ごみ回収が不十分な地域で非公式に活動している。
- ▶ 住民からごみ収集料を徴収し、再生可能資源を回収。
- ▶ 最低賃金の最高7倍を得ている。

18

スライド⑱



19

スライド⑱

官民パートナーシップ



20

スライド㉔

官民パートナーシップ



21

スライド⑳

官民パートナーシップ



22

スライド㉑



スライド⑳



スライド㉑

結論

- ▶ 開発途上国におけるリサイクル活動は、ごみ拾い人に依存している。
- ▶ 経済的背景：貧困、セーフティーネットの不足、安価な原材料に対する企業の需要。
- ▶ 低収入の主な原因として、中間業者による搾取と抑圧的な政策が考えられる。

25

スライド②⑤

結論

- ▶ 組織化することで、中間業者を介さず、抑圧的な政府の政策を変えることができる。
- ▶ スカベンジング（廃棄物から再生可能資源を回収すること）は、雇用創出、貧困緩和、都市環境の整備のほか、埋立地の寿命を延ばし、企業の競争力を高めることができる。すなわち、より持続可能な消費と生産の実現につながる。
- ▶ したがって公共政策として、スカベンジャー（ごみ拾い人）を支援し、彼らの労働環境と生活環境の向上に取り組むべきである。

26

スライド②⑥